

## 若手研究者育成のためのワークショップ 第6回細菌学若手コロッセウム 終了報告書

平成24年8月8日から10日の3日間にわたり、第6回細菌学若手コロッセウム（若手研究者育成のためのワークショップ）を大学セミナーハウス（東京都八王子市）にて開催し、無事に終了致しましたので、ご報告申し上げます。

東京都心から少し離れた八王子市の山間部にあり思ったよりも交通の便が悪い大学セミナーハウスでの開催、また真夏の暑い時期にも関わらず参加者は約90名、発表演題は56題となり近年になく盛会となりました。本会は、医学細菌学をメインに研究を行っている研究者だけではなく、獣医学領域、植物領域や環境微生物を専門領域としている多数の研究者に参加をいただき「生物学としての細菌学」としての新たな知見を参加者に共有してもらうことを主眼において開催しました。そのため、1日目の特別講演として海洋研究開発機構・ソフトマター応用生命研究チームの出口茂博士により「極限環境微生物とのソフトなお付き合い」と題した講演を行っていただき、深海という極めて栄養環境の悪い環境で微生物がどのように生育するのか、生物学的に極めて興味深い内容をウィットに富んだ豊富なスライドを駆使して講演をいただきました。また、2日目には、早稲田大学理工学術院 電気・情報生命工学科より岩崎秀雄博士に「シアノバクテリアの時空間パターン形成と美学」と題して、これまで博士が研究を行ってこられたシアノバクテリアの持つ概日周期だけでなく、芸術家としても活躍しておられる岩崎先生の「芸術からみたサイエンス」という、我々の思いもつかない視点での御講演をいただきました。また、1日目、2日目とも、それぞれランチョンセミナーとして Roche 株式会社、ナカライテスク株式会社に昼食時を利用して、最新鋭の機器の紹介をしていただきました。

一般演題については、昨年と同じタイムスケジュールにも関わらず演題数が倍近くとなったため、非常にタイトなスケジュールとなりました。医学細菌学だけでなく、植物病原体、環境微生物など様々な視点での微生物という観点での研究発表が行われました。また、若手の研究者の方に活発に討論してもらうことを目的としたため、長めの討論時間をスケジュールとして盛り込んだためスケジュールがさらにタイトなものとなってしまい、1日目、2日目ともに終了時刻が午後10時近くになってしまいました。それにも関わらず活発な議論が展

開され、活気のある会となり、WG 一同安堵しています。休憩時間や交流会においても参加者間で非常に活発な交流が行われ、参加した全ての若手研究者にとって非常に有意義な 3 日間となったと思います。ただし、学会終了後のアンケートでは、「非常におもしろかった」という意見は多数いただきました反面、やはりタイトなスケジュールがたたったのか、「もっと議論する時間が欲しかった」との意見もあり、その点は演題数をさらに絞りこんで討論時間を増やすなど、さらに改善すべき点があると考えています。

本ワークショップは、日本細菌学会「平成 24 年度若手研究者育成のためのワークショップ」に採択され、本学会から全面的な支援を受けて開催されたものです。本ワークショップへのご支援について、日本細菌学会理事会及び会員の皆様に改めて感謝を申し上げます。若手研究者の活性化や教育のためには、このような形式でのワークショップを継続して行うことは非常に重要なことだと考えております。引き続き、本ワークショップの継続的な開催へのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成 24 年 8 月 13 日

若手研究者育成のためのワークショップ

第 6 回細菌学若手コロッセウム

世話人	中川一路	(東京医科歯科大学)
ワーキンググループ	安倍裕順	(大阪大学微生物病研究所)
	丸山史人	(東京医科歯科大学)
	三室仁美	(東京大学医科学研究所)
	皆川 周	(京都薬科大学)
	森田鉄平	(鈴鹿医療科学大学)
	清水 隆	(山口大学)